

令和５年度 第１回子育て教育・福祉部会

日時：令和５年１０月２６日

場所：浪速区役所 ７階会議室

○小林総務課長

それでは、定刻になりましたので、ただいまから、令和５年度第１回の浪速区区政会議 子育て教育・福祉部会を始めさせていただきます。

私、本日司会を務めさせていただきます、総務課長の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の「子育て教育・福祉部会」は、子育て支援、教育、福祉、健康などに関することをテーマに、活発な意見交換の場として開催をさせていただきます。いただきました御意見等は、部会として、この後開催されます本会議のほうで報告をしていただくことになります。

本日は、当部会の委員９名のうち、１９時１５分現在、９名全員の方に御出席いただいております。区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第７条第５項の規定により、本日の部会の成立をここに御報告をさせていただきます。

当部会におきましても、区政会議と同様に、会議終了後、議事録を作成しまして、ホームページ等で公開をいたします。そのため、本日の会議におきましても、録音させていただきますとともに、会議風景を都度適宜撮影させていただきますので、御了承いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと存じますが、部会におきます議題１「部会長、副部会長の選出」までを、私のほうで進行役として務めさせていただきます。

それでは、部会長とその補佐役といたしまして、副部会長を互選によりお決めいただきたいと思います。

まず、部会長についてでございますが、どなたか御推薦等ございませんでしょうか。

○竹内委員

はい。

○小林総務課長

竹内委員、よろしくお願いします。

○竹内委員

この部会の内容からして、浪速区で生涯学習の活動をされてる豊嶋さんが適任かなと思います。

○小林総務課長

ありがとうございます。

ただいま、豊嶋委員の御推薦をいただきましたけれども、委員の皆様御異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、豊嶋委員に部会長をお願いしたいと思います。

引き続き、副部会長の互選を行いますが、どなたか御推薦等ございませんでしょうか。

○豊嶋部会長

浪速地域のほうで子育てに深く関わっていらっしゃいますので、谷口委員が適任かなと思います。

○小林総務課長

ありがとうございます。

ただいま、豊嶋部会長のほうから、谷口委員の御推薦をいただきました。御異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

豊嶋委員、谷口委員におかれましては、部会長席、副部会長席のほうへ御移動のほうよろしくお願いいたします。

では、改めまして、ここからの議事進行は、豊嶋部会長にお願いいたします。

豊嶋部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○豊嶋部会長

改めまして、こんばんは。ただいま竹内委員の御推薦を受け、皆様に了承していただきまして、部会長にならせていただきました豊嶋と申します。これからは皆様に御協力いただいて、私のほうで議事を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、発言の前には、委員のお名前を名乗ってからの発言をお願いいたします。

○谷口副部会長

副部会長の谷口と申します。浪速地域で子育ての活動を10年ほどやらせていただけてます。部会長の補佐役として頑張らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○豊嶋部会長

それでは、議題2の1つ目のテーマ「区民への健康啓発の効果的な方法について」、まずは、区役所から説明していただいて、その後、約15分程度の意見交換を進めていきたいと思っております。

皆様の積極的な御意見をぜひとも賜りますようお願い申し上げます。

それでは、議題2の1つ目のテーマについて、区役所から御説明よろしくお願いいたします。

○田島保健子育て支援担当課長

区役所の保健子育て支援担当課長の田島です。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からですね、部会のテーマということで御説明させていただきたいと思いますが、資料6「令和5年度 浪速区運営方針【区政会議用】」をお手元にご用意ください。

5ページの経営課題2を見ていただいたほうが中身がわかるかなと思うんですけども、令和5年度の主な取組ということで、4つ大きな項目あるんですけども、その3つ目について、ここで御議論いただければなと思っております。

御議論いただく部分で、この横長の資料10「ご議論・ご意見をいただきたい事業について」と一緒に御覧いただいてよろしいでしょうか。

その2つ目、番号2が、今回こちらで御議論いただく中身になります。

事業名称等ということで「区民への健康啓発の効果的な方法について」ということで書かせていただいておりますが、これが先ほど見ていただきました資料6の経営課題2、令和5年度の主な取組の3つ目の「区民への健康啓発の推進」という項目が該当する部分になりますので、それぞれ見ながら考えていただければと思っております。

主な事業の内容としまして、資料10のほうに簡潔に書いてるんですけども、現在です、ね、地域でのいきいき100歳体操などの活動の際に、保健師等による健康相談を年間約30回程度させていただいています。あと2つ目の、健康講座の開催であるとか、各種検診等のご案内を広報紙へ掲載したりとかですね、あと地域の町会や医療機関、それから公共機関などに周知依頼を行っているというところで、先ほど資料6の令和5年度の主な取組のところの見ていただいているところに、もう少し詳しく書かせていただいているところでございます。

背景といたしましてですね、健康寿命が大阪市の平均よりも低い状況に浪速区はあるというところで、効果的な健康啓発の方法があれば、皆さんの御意見をいただきたいなと思っております。

事前説明会のときに少し触れさせていただいたんですけども、実は、健康のエリアの予算というのがあまりないような状況でして、チラシを作成したりとか、消耗品の購入であるとか、あと講座のときに講師をお呼びするんですけども、そういった経費ぐらいしかないというところで、ちょっと制約があって申し訳ないんですけども、あんまり予算のない中で、どういったことをやっていけば効果的な健康啓発というのできるのかっていうところを皆さんで御意見いただければなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○豊嶋部会長

ありがとうございました。それではただいまのテーマについて、意見交換を進めてまいります。

どなたか御意見ございますでしょうか。

○宮本委員

予算がないとおっしゃいましたけれども、これ検診を受ける人数が少ないということとは、市から下りてきている予算を使う人が少ないということですね、逆に言えば。レントゲンを1回撮っても、採血してもお金が本当は要るわけですからね。そうしたそのお金を幾らか予算にもらえないんですか、区として。

例えば、1,000万あったとして、受診率80%のところは800万要るわけですよ、医療機関に対して。でも浪速区は30%しか使わなかったら、あと余ってるお金があるわけですよ。その分を啓発に使いたいと、変な話おまけをつけるじゃないですけどね、そういうものに使いたいっていうのは言えないんですか。

○田島保健子育て支援担当課長

そうですね、元々こちらで持ってる予算であればそういう使い方、いいかどうかは別としてできるかもしれないですけども、その健康診断の経費自体は、こちらで持ってる経費ではないので、それをこっちにくださいっていうのは、たとえ使ってなくても、ちょっとできないですね。

○宮本委員

でも市としては、市民一人一人に対しての予算ですからね。浪速区民が受けへんかったら予算出さないじゃなくて、何とか引っ張ってくるというのは絶対に無理なんですか。

○田島保健子育て支援担当課長

一回、話はしてみてもいいかもしれないんですけども、現実的に、そういう予算を移管してくるみたいなことはなかなか難しいかなと思ってます。

○宮本委員

それこそこの前の区民まつりでも、スタンプラリーしたら粗品でも結構並ぶぐらい来るわけですから、今年ちゃんと健康診断を受けて、1回目受けた、2回目受けた、そこで病院にかかると健康で3回目受けた。3回受けたらなんだとか、何か簡単に見える目標的なものを設定するのもいいかなと思ったんですけど。ただ予算がないとおっしゃるから。

○田島保健子育て支援担当課長

少しずれるかもしれないんですけども、大阪府のほうで、アスマイルという健康診断を受けてくれたらポイントくれるよみたいなことをやってたりもしています。実は、そういう少しお得感がありますよっていうのもさせてもらってるんですけども、実質それを使ってポイントをもらってるっていうのは、ケースとしては少ないと思います。

○宮本委員

私が初耳ですから。行き渡ってないということかもしれません。

○田島保健子育て支援担当課長

それはあるかもしれませんね。

予算もらう話で、できないはあると思うんですけど、そういう話もあったということ。

○宮本委員

だって誰も検診行ってへんのやったら、その分絶対浮いてるはずですからね。だって採血1回、普通の献血で1,000円ぐらい。医療機関で受けたらね。レントゲンが何点ってあるから、その分払ってるわけでしょ、大阪市は。

○世古口副区長

貴重な御意見ありがとうございます。考え方としては、ラジオ体操のスタンプみたいな感じでね。そこに予算をかけなくても、浪速区って企業がたくさんありますので、企業と連携しながらね、何かそういう意味でちょっとお土産物が出せないのかとか、

考え方はいろいろあると思うんで、予算があるなしに関わらず、一つの宮本委員の考え方っていうのは非常に参考になります。

○宮本委員

突拍子もないかもしれませんがね。健康診断の案内来ても、ぼいと置いて、受けへんでも罰則もなければ、何もない。病気になって風邪ひいて、病院行ったらレントゲン撮ってくれるやん、血も取ってくれるやん、というのがベースにあるはずなんです。そうしたら、いや、そうじゃない、健康なままで健康診断を受けていって、積み重ねに何かあるとなったら、そのほうが明るいかと思って。

○世古口副区長

貴重な意見として、承ります。

○宮本委員

病気してたら別に病院で調べるから要らんねんけどねと思います。すみません。

○田島保健子育て支援担当課長

ありがとうございます。

○竹内委員

これ質問でもいいんですか。

○田島保健子育て支援担当課長

はい、どうぞ。

○竹内委員

質問したいんですけど、この特定健診、請負でやってるって、対象者は誰ですか。

○宮本委員

国民健康保険の人。

○竹内委員

国民健康保険の人数の、例えばこれやったら、浪速区18%しか受けてないということですか。土台となる母数は人口数ではないということですか。

○田島保健子育て支援担当課長

人口数ではないです。

○宮本委員

自営業者が多いから、どうしても組織に属さない人がおるから無理なものは。

○竹内委員

そもそも自営業、個人事業主でもいいけど、国保入ったりするじゃないですか。その場合は、分母には入るけども、職業上、必ず年1回受けないといけない職業というのもあって、個別で受けてる場合というのは、この受けてない人の側に入ってくるということですか。

○田島保健子育て支援担当課長

国民健康保険に入っておられて、会社で受けたということですか。

○竹内委員

個人事業主的なもので、何ていうか、保険は国民健康保険です。例えば、僕ら建設業やったらちゃんと年に1回健診を受けて提出しないといけないので、だから仕事の一環として受けてはるわけですね。ここで今書いてる数字は18%、ということは、例えばざっくり100人の国保の人がいたら、18人しか受けてませんよと、この特定健診っていうこの行政がやってる分に関して、あとの82人の中には、そういった自腹で普通に受けてるよという人はどっちに入ってるんですか。

○田島保健子育て支援担当課長

自腹で受けてても、健康診断を受けてるというのを報告してくれていたら数字には入るんですけど。

○竹内委員

何のために報告するんですか。区役所に、あんまり関係ないじゃないですか。自分が病院に通いましたよみたいな話。

○田島保健子育て支援担当課長

そういうのを報告してくださいねっていうふうな周知もしてるんですけど、ただ基本おっしゃるように、自分で受けてはったら、わざわざ区役所に言わないし、国保入ってるけど会社で受けておられて、わざわざ区役所言うかといったら言わないんで、それは分子には入らないんですよ。

○宮本委員

会社が一部公費負担しようと思って、使ってるかもしれへんけどね。分かりますか。ベースになる検査の本当にベースの基本中の基本やけど、やっぱりそれでもお金かかるでしょ、普通に行ったら、そやからその公費の分は、それで賄って、あとプラス建設業で要るもんもあれば、それは、会社が自腹かもしれん。それはもうケース・バイ・ケースやと思いますよ。

○田島保健子育て支援担当課長

多分、おっしゃりたいのは、この18%って、ほんまにぴったりの数字なんかということやと思うんですよ。

○竹内委員

例えば住宅街とか、そういうところに住まわれてる人っていうのは、一人暮らしじゃない人が多い場合に、年取って商売やってる人や、サラリーマン家庭でリタイヤした人が国民健康保険になって、暇やから受けよかみたいな人もおるかもしれないですけど、浪速区のおじいちゃん、おばあちゃんって現役で会社やってたりという方もいらっしゃって、ただ、保険的には国保になって、みたいな人がいた場合に、この18%ってどこまで正しいのかな、謎やなと。24位って最下位ですけど。

○田島保健子育て支援担当課長

ほんとにおっしゃるとおり、ほんまにきっちりぴったりした数字なんかというと、そこはおっしゃるようなケースはあるので。

○竹内委員

24区あれば地域性が全然違うので、どうなんかな。

○宮本委員

もともと病院に通ってるちょっと病気ある人は、健康診断受けに行きませんやん。もう病院で毎月血取ってくれてるから、そんな人の数が入らへんから、実際にはもっと検査されてるはずなんです。

○世古口副区長

実際はそうだと思いますね。

○宮本委員

実際はね、例えばおじいちゃん、おばあちゃんなんか、私もう毎月先生に見てもらってるからええわいうたら行きません。そやからなかなか上がってけえへんところあると思う。

○竹内委員

ほな健康診断を受けましょうということを議論する意味ってあんまりくないですか。

○宮本委員

いやいや、だから率だけ上げたいわけやから。

病気でかかっている人もほかの病気が見つかるかもしれへんとか。

○竹内委員

そもそも論の話としてね。それこそ、地域でやられてる、これは安全安心なまち部会の話かもしれないですけど、おじいちゃん、おばあちゃんが集まって、生き生きと過ごせるように、じゃあみんなですろって受けに行こうぜって、そっからこう。

○宮本委員

それこそ、半強制的に、例えば食事サービスしているところで、血取るとか、したら、絶対上がると思う。

昔だって、健康展って、区民センターで随分昔やってたときに、保健センター、今の保健センターじゃない保健所がセンターだった時代は、そこで採血してましたもん。

区民センターのホール入ったとこの右手に、そこで採血するから、絶対上がりますやん。ほんでレントゲン車を表に止めとけば、ついで参りやないけど、ついでに取ってもらう。そうしたら上がりますよ。だってそこにこっちから出向いていったら、多分上がる。健康展って知りありませんか。区民センターでやってた。

○竹内委員

平日の昼間に行けない。

○世古口副区長

休日です。今年、何年かぶりにやったんです。

○宮本委員

でも、今は採血しないでしょ。

○世古口副区長

しないです。

○宮本委員

だって保健センターが保健所じゃないもん今はね。その当時は、保健所ってちゃんと所長は絶対医者であったり、医療系やったんです。今は行政チックですからね。そやからそのときは、来て採血してたんです。今、区民まつりは大病協さんが血圧測ってるだけでしょ。そうじゃない。そこで、実際採血してやってた。そしたら、やっぱり率高かったと思いますよ。

そなん、行政的にできるんかどうか分かりませんが、私は本当に上げる気やったら、それぐらいしたら上がると思います。

○竹内委員

特定健診というのは例えば、検診カー、よく町で見かけるのは、マンモグラフィーのあんなんで、できるんですか。

○宮本委員

多分、そこまでやらへんと思いますよ。

○竹内委員

この最低限受けてほしいものは、バス1台でできるものがあるんですか。

○豊嶋部会長

できます。私も会社で、集団健診を受けているんですけど、別に病院に予約すると、その時間を決められるので、区民センターとかに集団健診用の社会保険の健診車が来るんですね。その日に、週末にそこで受けるので、全部、レントゲン、バリウム検査も。

○竹内委員

その予算って誰が出すんですか。年に1回車呼んでとかいうことになったら、どこが出すことになるんですか。それが何人受けてくれるか分からへんみたいな話かもしれないですし。

○田島保健子育て支援担当課長

区役所でも特定健診の受診はできますので、募集もかけさせていただいて、来ていただいています。

がん検診とセットですることもあるんですけど、それは、基本はこちらでお金持ってるわけじゃなくて、健康局であったり、国保の担当の部署がお金持ってる形になりますので。

○竹内委員

今、区民まつりがあんな形になってしまいましたけど、もともと浪速公園でやってたんですね。スペースすごいあるじゃないですか。公表1万人以上集まっているということらしいです。

それが健診が小一時間で済むのか分かんないですけど、当日来た人が受けれるのかも分かりませんが、運営してるのおじいちゃんばっかじゃないですか、屋台みたいななんやってるの、受ける受ける言うて、ちょっと行ってこい言うたら、必然的に上がるんじゃないですか。事前申込みも当然受け付けて、当日もということであれば、人数

の確定ができないから当日まで。だから、予算とかそういうもんってどこが出すんだろうとは思いますがというのと、やっぱり今やってる区民まつりの会場じゃ狭過ぎるので、浪速公園に戻すっていうこと、多分安全安心なまち部会の話になると思いますけど、それもセットで考えてみてほしいな。

○世古口副区長

できるできない別にして、御意見として承ります。

○宮本委員

グラウンドで尿検査、おしっこするの大変やね。

○世古口副区長

よく献血とか、イベント会場などで行っていますね。そんなイメージですよ。

○宮本委員

だからレントゲン車ぐらいやったらね、あれはもう結核検診だけでも、集会所に來たりしてますよね。それと同時に、例えばもうこの項目の採血、尿検査、ちょっとガン検診はしんどいかもしれんけど、心電図はすぐ取れますからね、ベットさえあればいけるわけやから、そんなんしたら、率は上がると思いますよ。どっかの多分医療機関と組まんと無理やと思う。

○竹内委員

逆に今、大阪市で1位のところってどこか分かりますか。

○世古口副区長

大阪市そのものが受診率低いんですよ。

○竹内委員

大阪市で浪速区が今24位やから。

○高山保健担当課長代理

西淀川区が1位です。

○竹内委員

何%ぐらいですか。

○高山保健担当課長代理

24%ぐらいです。

○宮本委員

それもしれてある。じきにトップ取れるでそれやったら。

○田島保健子育て支援担当課長

勉強会でお話はしたんですけど、大阪市全体でもそんなに高くはない。

○世古口副区長

多分、ほかの自治体に比べて大阪市そのものが低い。

○田島保健子育て支援担当課長

そうです。大阪市全体としても、ほかの自治体よりはやっぱり低い部類に入ってるので。

○宮本委員

半強制的にやったら嫌でも。1位取ったらええねん。

○世古口副区長

国保の方には、直接郵便で案内を送ってるんですよ。

○谷口副部会長

40歳以上かな。

○田島保健子育て支援担当課長

そうです。特定健診40歳以上です。

○世古口副区長

送っているのですが、受けてくれない。

○田島保健子育て支援担当課長

大阪市も啓発せなあかんということで、業者に委託して、受診されてない方とか、電話で啓発をするんですよ。そのときに、何で受けないんですかって話聞いてはくれ

てるんですけど、やっぱりそこで一番多いのは、さっき宮本委員が言うてはったように、既に病院行ってるからという回答が多いんですけど、でもその病院で見てもらう中身と、特定健診で検査する中身とは全然違うので、本当はちょっと違う趣旨なんですけども、それが一番答えとしては多いというふうなお話も聞いてます。

○宮本委員

絶対そやと思う。心電図なんかあんまり撮らへんからね。

かかっている病気の項目しか本当は見ないです。

だからガンに全然気がつかなくて、毎月検査してたのに、その検査は違う。がんの検査一個もしてない人もぶっちゃけあるんですよ、発見したらもうステージ4やってね。この病院ずっとかかっているのに。それじゃあない、高血圧やから、それしか見られてへんねやでって。そやからそういうのも啓発項目にいいかもしれませんね。

1つの病気を見るだけじゃないと、検診というのは広く、あなたの体の全身を見るですよみたいなPRもいいかもしれない。

実際そうですよ。血圧で病院かかっている人は血圧、血糖値が高い人は、糖尿ばかり見るでしょ。その検査は病院が真面目にするけど、変な話、がんのマーカー検査は言わんとしてもらえませんか。そやから、そんなんをPRするのもいいかもしれないと思います。

○田島保健子育て支援担当課長

ありがとうございます。

○豊嶋部会長

やはり、早期発見、早期治療が一番望ましいので。

出向くっていうことがおっくうになられるのもあると思うんですね。

○宮本委員

それと、行く先の病院も書いてあるけど、逆にそのどこへ行っていいか分からんなと思う。いっぱい書き過ぎて。だから病院によっては、来てるんやけどと言うたら、

じゃあ持ってきて、その分も検査するわっていう先生もいらっしゃる。そやからあとは医師会にできるだけそれ持ってそんな人、保険証見たら分かるわけやから、その人にはそれ使って検査一部してくださいよと言うたら、やってくれたら率上がりますよ。

○豊嶋部会長

ほかにどなたか御意見はないですか。

やはり皆さん、お年寄りの方で、病院に常に通院されてる方は、そういうような状況だと思うんですけど、それ以外の方ってというのは、体に異変がなければ、つい後回しになる方が多いと思うんですね。だから、やはり何か集うところで、ついでに受けられるよっていうようなのが、一番かなと思うんですけど。

○竹内委員

各種いろいろやってるねんから、そこに検診カー連れていったら、それだけで6%ぐらい上がる。

○宮本委員

区民まつりね、浪速グラウンド行って、健診するいうたら、尿検査トイレ大変やから、それやったら区民文化祭やったら。区民センターやから、ちょっと狭いけどね。

○竹内委員

狭いな。お年寄り多いですもんね。

○谷口副部会長

年齢比率って何なんですか。40歳からでしょ。どれぐらいの年齢の人が来てないとか、来てるとか。

○高山保健担当課長代理

40代の方は、今一番受診率低いです。

若いほうが低い。

○竹内委員

基本的な考えとしては、会社に属さないで、国民健康保険の方って、1人で働いて

る方、自営業者。例えば、建設現場の職人さん。会社に属してない職人さんというのもおるわけですね。そういう方って、国民健康保険で自分で払ってるんだけど、仕事上で必要だから、自腹で当然受けにいてますわ。現場、入るときに全部出さないといけないので。

だから、それ40代ぐらいの方って、数少ないのも当然で、仕事してるから、仕事で必要だから、この日に受けに行くわと予約して、受けに行きはるから。行政のこれを待ってられないから。

○豊嶋部会長

建設業とかだと、現場入るのに健康診断受診済みであることをちゃんと出さないと入れない。そういう業種は嫌でも受けるだろうけど、そういう縛りのない業種だったら、多分、おざなりになると思うんです。

○宮本委員

絶対上げようと思ったら、こっちから出向いていったら、そこにいる人とりあえずは、フォローできるんかな。それやったら上がります。

○竹内委員

川村さんは受診してますか。

○川村委員

こないだ送られてきました。でも開けてもないですわ。

○宮本委員

もうちょっとしたらね、もう行ったか、行ったかって追いはがき来ます。

○世古口副区長

封筒の表に特定健診のお知らせと書いてあるのでしょうか。

○田島保健子育て支援担当課長

書いてます。

○川村委員

そうなんですね。しっかり目を通しときます。

○世古口委員

書いていても開けないですか。

○上田委員

40歳になって封筒が来たときから、ずっと毎年受けています。

だんだん、電話をかけて申し込むのが面倒くさくなってきました。

○世古口副区長

検診の場所は、基本は病院だけでしたっけ。

○高山保健担当課長代理

病院か区役所です。

○世古口副区長

区役所は年何回ぐらいあるんですか。

○高山保健担当課長代理

区役所は年に8回ほどございます。

○世古口副区長

そのうちの何回を区民まつりに回せたらという感じですか。

○宮本委員

区民まつりは会場的に問題が。

○竹内委員

会場変えたらええ、だから。

○宮本委員

会場変えたら今度トイレが困る。

○竹内委員

それは仮設トイレ造ったら。

○宮本委員

仮設ではおしっこ取るの男はええけど、女は大変よ。それはあかん。

○豊嶋部会長

ある程度は、先ほど御意見あったみたいに、区民文化祭とかだと、区民センターで行われているので、そこの一部屋だけを健診用のスペースに確保してっていうことは、可能ですよね。

○世古口副区長

できるかどうか検討しますけども、御意見としてはすばらしい御意見だと思います。

○宮本委員

まずは、健康展、今年復活したんであれば、その脇に1か所ブースで健康診断ブース。それで、この緑の封筒来てる方、持ってこられたら、ただですよと書くわけ。

○世古口副区長

そこで何か、軽いプレゼントみたいなものがあれば。

○宮本委員

ひっかかりそうな人は、病院が名刺渡したり。

ほんとあの封筒あまり見たくないやろ、見てもざっと病院の羅列でね、ちょっと悩むと思う。私あれでは受けたことない。

○竹内委員

国保じゃない人も届くんですか。

○世古口副区長

社会保険の人には行かないですね。

○田島保健子育て支援担当課長

はい。国保の方だけ。

○世古口副区長

国保だけ。社会保険入ってる人は、会社のほうから連絡が入って、会社のほうで受けてる。

○宮本委員

社会保険の人とか、共済保険の人とかは、その自分の入ってる所属のところでやらなあかん。やらへんかったら所属長とかが怒られるからやらされるわけです全員。

○竹内委員

チラシで見たんかな、それ見て僕電話したら、保険が違います言われたんで。

○宮本委員

あとは各病院に、国保の保険証見たら、健診の封筒来てませんかって言わせたらいい。ほんで持ってきたら、それで一部安くなりますよって言わせたら、ほんだら持ってくるわ。それやってはる病院もあります、実際に。

人間のドックのそこはしないと思う。でも治療目的のそこはやりはると思います。

○世古口副区長

病院の御協力をいただく、一つの案ですね。

○宮本委員

医師会の会議で言ったらいい。先生方のクリニックでお願いします、と。

○世古口副区長

病院の先生から声かける。国保かどうか分かってますしね。

○宮本委員

受付で言ってもらったら、いくらか安くなんねんやったらって受診率が上がるかもしれん。1回それで何%上がるか、次、区民まつりで何%上がるか。いうてるうちにトップになったりして。

○竹内委員

健診率上げたいのは分かるけども、そこが目的じゃないですよ。

○宮本委員

でもそれで病気が見つかるかもしれない。

○竹内委員

健康で、生き生きと長生きすることが目的では。

○田島保健子育て支援担当課長

健康寿命が低いので。

○竹内委員

健診はその過程で1個の手段であって。

将来ビジョンの8ページで、地域見守り会議とか、食事サービスとか、いきいき百歳体操とか、実際これ僕行ったことないから分かりませんが、たまたま写真が載ってたんで。

例えば、食事サービスとかって、ずっと長い間やってはると思いますけど、来られてる人って増えたり、減ったりどっちですか。増える傾向にあるか、減る傾向にあるか。

○川村委員

塩草は増えております。

○竹内委員

世帯数が増えてるからあそこ。

○川村委員

増えております。

○世古口副区長

百歳体操とか、敷津なんて2部制ですごい数です。

○宮本委員

大国も定員いっぱいです。

○竹内委員

そこに検診カーを。

○宮本委員

その検診カーで毎月1地域行ったら、ちょうど11連合やから、1年間でクリアしま

すよ。

○世古口副区長

保健師さんが行って啓発はしています。

○谷口副部会長

浪速町から区役所までは遠いのかなと。

○宮本委員

それやったら日本橋から区民センター遠い。

健診率上げるだけやったらそれで。病気で引っかかる人が増えてくるとは思う。

○豊嶋部会長

すみません。健診に関しては、一旦ちょっと終わらせていただきまして、今日の頂いている資料10の3番目の「令和6年度浪速区運営方針（素案）」及び区関連予算について。

区の関連予算についてということですが、ちょっと今、お目通しいただきまして、何か御意見ございましたら聞かせていただけますか。

○世古口副区長

資料は資料として見ていただきながら、この部会であります子育てとか、教育とか、福祉に関する一般的な御質問も含めまして、御意見いただければと思います。皆さん地域でいろいろ活動していただけてますので、そこで感じたこと、本当にささいなことで結構ですので、いろんな御意見いただけたらありがたいと思っております。

○竹内委員

よく分からなかったもので、質問したいところがありまして。資料7「令和6年度浪速区運営方針(素案)【区政会議用】」の経営課題3、6ページ、7ページ。これで、平成28年度の多分、保護者の割合か、浪速区が「心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人がいない」とか10.2%あって、片や次のページで、「子育てについて気軽に相談できる人や場所がある」と回答した人が98%という令和5年の目標がね、これ

は、100%超えますけど、どういうことになるやろ。

○田島保健子育て支援担当課長

6 ページのほうの現状とデータのところの、「平成28年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査」のことを今おっしゃっていただいたんですよ。心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人がいないということで、浪速区は10.2%という調査が出てます。これは、平成28年度当時の小学校5年生と、中学校2年生に対して、全世帯調査してるんですよ。その中でこういう数字が出てきたと。ちょっとこれは、大阪市平均から比べると、やっぱり悪い方向の数字なので、ここは問題点かなということで、ここに上げさせてもらっています。

今、委員から御指摘のあった、アウトカム指標のところの子育てのアンケート調査のことをおっしゃっていただいているのかなと思うんですけど、これは、子育ての関係で、イベントなどに来ていただいた方に対して、アンケート調査をしてるんですよ。だから、対象が違うんですよ。この調査自体はこちらではできないので、今年度、平成28年度の経年の分で、今やってるとこやと思うんで、この調査がどうなったのかというのは、後追いはせなあかんかなと思ってんですけども。

○竹内委員

セミナーとか出てきてるような人を対象にアンケートをしていると。そんな人は多分大丈夫やから。

○田島保健子育て支援担当課長

そんなに悪いイメージをお持ちじゃないというのが多いので、おっしゃるとおりです。だから、そこそここの齟齬っていうのはあるよねっていうのはおっしゃるとおりで、事前説明会でも全部は説明できなかったかもしれないですけど。

○竹内委員

目標設定としては、検証ができないから、この数字を使ってるけども、実際はこっちのこの平成28年度が現状で、10人に1人は誰にも相談できへん人がおるんやという

こと。

○田島保健子育て支援担当課長

その後の追いを今、調査してるはずなので、どうなのかというところは、我々も注視せなあかんかなとは思ってるんですけど、ただ、これが毎年やる調査ではないので、ここに上げるデータとして、いいのかどうかという問題はあるんですけども、なかなか適当なものがないというところもありまして、こういういびつなデータの構成になって、分かりにくいというところは、申し訳ございません。

○世古口副区長

毎年、区の運営方針を定めまして、指標や目標値を定めて取り組んでおります。この場合も、平成28年度の調査が毎年できればいいんですけど、毎年できないので、各年度の運営方針の目標はこういった目標値を設定しています。

○竹内委員

すごく偏った10%ぐらいの人を対象にアンケートを取ってるから、ほぼ100%の回答が来てるということなわけじゃないですか。

○田島保健子育て支援担当課長

だから最終目標は100%にしています。

○竹内委員

何の指標になって、何の検証になるんやろうという。すごく疑問に思うところなんです。

○宮本委員

資料に、西暦表示と年号表示が混在して書いているものがある。

この区政会議、私は初めてなんですけれども、これまで何年かやってらっしゃって、本当にこの委員から出たことが、区政の今まで予定したのに対して、何ていうんですか、実行したものいうか、変更されたものとか、そういうのを一覧表にして本当は見たいんですけど。どれぐらいのレベルで発言するのが一番いいのか分かりませんし。

○世古口副区長

委員からの御意見に対する対応の資料があります。

○小林総務課担当係長

資料12で、これまで皆様からいただいた御意見に対して区役所はどんな対応したかというのと、あと、対応済みですとか、今年度中にやりますとか、そういうような番号で区分して、毎回、区政会議のたびに報告させていただいております。

○宮本委員

歴代の分ですよ。

○世古口副区長

対応済みになったら削除しているので。かなりありますよ。

○宮本委員

この前、副区長さん、皆さん選ばれて、これは一番上の会議ですよって、一般区民の自尊心だけくすぐるようなことおっしゃって、例えば、区役所がやりたいことやった、クレームが来た、これは区政会議の皆さんが承認されましたからというだけの城壁ですか、そうではないでしょう。

○世古口副区長

そうではないです。当然、御意見はいただきますけども。

○宮本委員

でも無視しますというのはでけへんですからね。

○世古口副区長

無視は絶対しないですけども、できることとできないことはあります。

○宮本委員

もちろんそうですよ。だから、どのレベルの発言がいいのかなと思って。それもあったんです。

○世古口副区長

いただいた御意見は資料に示しています通り、ずっと更新して追ってます。

○宮本委員

今日、早速、歴代の委員からいろいろ言われて参りましたので、一応お伺いしておきました。

○世古口副区長

必ず、御意見に対してどういった対応したのかっていうのをお示ししてます。できる、できないにかかわらず。

○宮本委員

そのための言い訳部会みたいなもんかなって。そんなもんや言われて来ました。

歴代の方がそう感じてらっしゃるねんやったら新人としたらどれぐらいのレベルで発言するのかな。初心者マークですから。失礼いたしました。

○世古口副区長

ほかに何か、本当に何でもいいんで、おっしゃってください。

○豊嶋部会長

例えば、資料10の参考資料、事前説明会のときに出た意見に対する返答がございまずけど、これ3番、4番、5番がこちらの部会に関することかなと思いますので、もしそれ御覧になって、御意見ございましたら。

ちょっと質問いいですか、この4番の不登校とかいう話なんですけど、区政会議で議論されるのはもっぱら小中学生が対象になっていると思うんですけど、まだ大人になれていない高校生の不登校生なんかはもう対象外なんじゃないでしょうか。高校になったらちょっと大阪市から見捨てられる感が私はすごい感じるんですけど。

○宮本委員

小中は義務教育やし、高校やと自分で受験するわけやから多分、それはしょうがない、高校は自分で選んでるし。

○豊嶋部会長

学校のサポートがどうのこうのじゃなくて、そこにも行けないような子どもは、どこに話を聞いてもらいに行ったらいいのかなとか。

○宮本委員

テレビでよく話題になっているフリースクール、浪速区ってあるんですか。

○竹内委員

西成区にありますね。

○宮本委員

大阪市やったかどっかが、すごく上手なのは、不登校者、学校の中で、フリースクールみたいなんをつくってるらしい。そしたら外には出ませんわね。保健室じゃなくて、学校の中に。浪速区なんか、空いた教室ある学校なんかそんなんできんねんなど思いながらテレビ見たんです。だから、フリースクールっていうのがあるんかを聞かなあかんから。あるのかな、聞いたことないかと、谷口委員あるんですか。谷口委員が知らないということはないな。

○田島保健子育て支援担当課長

僕がお答えするのはおかしいかもしれないですけど、基本、不登校って一義的には、一番最初、学校が対応するべきだと思うんですよね。私は福祉の担当なので、その福祉の関係で福祉的な支援をすることによって、その不登校が間接的にある程度改善されるというケースはあると思いますので、そういう意味で、関わるっていうのはあるとは思ってるんですけども、一義的に不登校、最初の出だしは多分、学校がどういうふうな状況かというのは確認されて、その中で、例えば、この子はちょっと福祉的な支援の要素が要るよということがあれば、それをつないでもらう。この前、子どもサポートネットのお話しさせてもらったかと思うんですけど、小学校、中学校については、そういう制度をつくらせてもらってます。高校生の場合は、家庭児童相談員というのがいてまして、これは、18歳までの方については、御相談の対象にはなるので、その中で、お話聞かせていただいて、そこで直接不登校対策というのはできないかも

しれませんけれども、関係するところにつないでいくというケースはあるのかなと思っています。その回答になってるかどうか分からないですけれども、高校生に直接不登校で区役所か何かやってるのかと言われると。

○矢田保健福祉課長

生活困窮者自立支援事業という事業がございます。こちらのほうで高校生、高校に行ったけど中退してしまったであったり、高校に行くことができなかったそのお子さんを対象に、個別に支援する仕組みっていうのはあるんですね。

高校に行っていないということは、その後のその子の生活力というのがやっぱり落ちてしまいますよね。そういう経済的な支援をする、経済的に自立に導いていくっていう視点にはなってしまうんですけれども。

生活困窮者自立支援事業の中に、子ども自立アシスト事業という名前の事業がございます。そちらのほうには、そのお子さんと個別にお話をさせていただいて、どんな支援がいいのかなということを考えていくということではできております。

○竹内委員

それは、どうやって発見してくるんですか。

○矢田保健福祉課長

そうですね、保護者の方から言っていただく事案もあれば、その中学校の先生が、その子のことを心配して、お声をかけて。

○竹内委員

生活に困窮してないニートは、そこに入ってこないんですよ。

親が金持ちで。

○矢田保健福祉課長

そうではなくて、その子自身に経済力をつけないといけないという。

○竹内委員

だからそれは見つけられないということですよ。その状況の子がおったら。親が金

持ちで、中卒で、家に引き籠もってる子どもがおっても。

○矢田保健福祉課長

親御さんがそのままでいいって言ってしまうと、見つからなくなってしまうですね。

○竹内委員

あまり教育に関心がなくてっていう、でもお金だけはあって、困窮はしてないよという家庭がもしあったとしたら、それは、発見ができないということですよね。

○矢田保健福祉課長

どなたかが発見してくださらないと分からないというところはありますね。

○宮本委員

そんなところは、専門学校行かせたりして、手に技術つけるんちゃうの、普通やったら。

○竹内委員

引き籠もって行かないです。

○宮本委員

出たらそれまで、出えへんってそれまで。難しいで不登校は。

○谷口副部長

自立支援アシスト事業もあれですよ、親がうんて言わへんかったら、結局一緒ですから。うちで受けるのも年1件ぐらいです。場所貸してというのもあるんですけどね、1件が限界ですよ。

○矢田保健福祉課長

浪速区内で今、お受けしてるのが、いろんな大きさの子どもさんいらっしゃるけど5、6件。コンスタントに5、6件ぐらいでしょうかね。

○谷口副部長

基本嫌やって保護者が言ってしまうと、子供嫌やって言ったらそれで終わり。

○豊嶋部会長

保護者の意識もありますよね。とりあえず家にいるけど問題ないからって言って、そのまま触らずに刺激しないようにしてるような家もあると思うんですけど、例えば、中学校卒業するときに、しんどくなったらこんなことを活用できるんだよっていうようなのを例えば、子どもたちに卒業するときに何か配付するとか、親が見過ごしてても、子どもにとってそういうカードがあるんだっていうのを知っとくというのも、大切な機会なのかなと思いました。でないと埋もれていきますよね、そういう子どもたちはね、どんどん。でも、一番大人でもないし、一番深刻になる年代だと。

○宮本委員

学校のキャラにもよりますやんか。高校はなかなか地域では手が出せんと思います。

○竹内委員

もう1個だけ聞いていますか、さっき言ってた7ページで、右側の一番上の表で、重大な児童虐待ゼロを維持って、「重大な」っていう定義はなんですか。

○田島保健子育て支援担当課長

死亡事故。

○竹内委員

ありませんでしたっけ、浪速区で。

○田島保健子育て支援担当課長

浪速区ではないです。

○宮本委員

ずっと昔はあった。

○竹内委員

今、なかったっけ。

○田島保健子育て支援担当課長

今はないですね。

○竹内委員

ニュースで見たような気がしたんやけど、それは違うんか。

○宮本委員

昔あったのも、住民票こっち置いてないかったから分からへん。

○竹内委員

分かりました。死亡事故ですね。

○豊嶋部会長

ありがとうございました。

なかなか限られた時間でしたので、思う存分御発言いただけなくて、お声を聞いてない方もいらっしゃるので、また次回は、皆さんのお声を聞かせいただけるようにと思っております。

本日の当部会の議事は全て終了いたしました。委員の皆様方には円滑な議事進行に御協力をいただきましてありがとうございます。この後は事務局のほうでよろしく願います。

○小林総務課長

豊嶋部会長、どうもありがとうございました。

それではこれをもちまして、第1回の子育て教育・福祉部会閉会とさせていただきます。

この後、隣の会議室へ移動していただきまして、区政会議全体会を再開させていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

—了—